

夏の造形研修会

【日時】令和5年8月4日(金) 【会場】名古屋市立豊岡小学校

13:00~14:05 第1部
模擬授業・協議会
研修会テーマ
「これからの図工・美術の
授業づくり」
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の追求～

14:15~14:55
ICTを生かしたこれから
の図工・美術の授業

15:00~16:00 第2部
造形講演会
演題 「図画工作科・美術科における
個別最適な学びと協働的な学びを考える」
講師 鳴門教育大学教授 よしあき
やまだ **山田 芳明 氏**

令和5年度 夏の造形研修会＜研修報告＞ 8月4日(金)

会場：名古屋市立豊岡小学校 主催：名古屋市造形教育研究会 後援：名古屋市教育会

第1部 模擬授業 【13:00～14:05】 研修会テーマ

参観される先生方に児童・生徒役になってもらい、授業に参加してもらいました。

『これからの図工・美術の授業づくり』

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の追求～

○小学校低学年「わっかでへんしん」

授業者：佐橋早苗(滝ノ水小)・栗原好江(名東小)

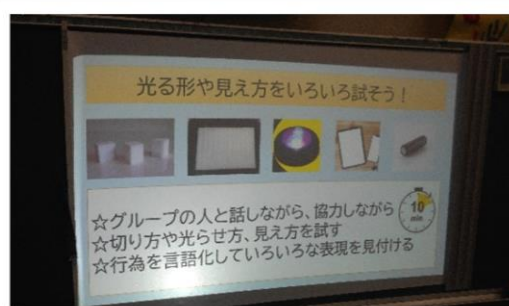
「見つけた！こんな面白い形や色」と形や色に着目しながら、わっかにした色紙から、新たに思い付いた形や色を身に付け「わっかでへんしん！」。グループで活動することにより、「面白いね！」「めがねをかけてみたら？」などと、友達同士の関わりが必然的に生まれます。タブレットPCの活用や表現の場の工夫などの授業づくりのアイデアも満載です。



○小学校高学年「光の形」

授業者：鈴木さやか(正保小)・柿崎丈史(守山中)

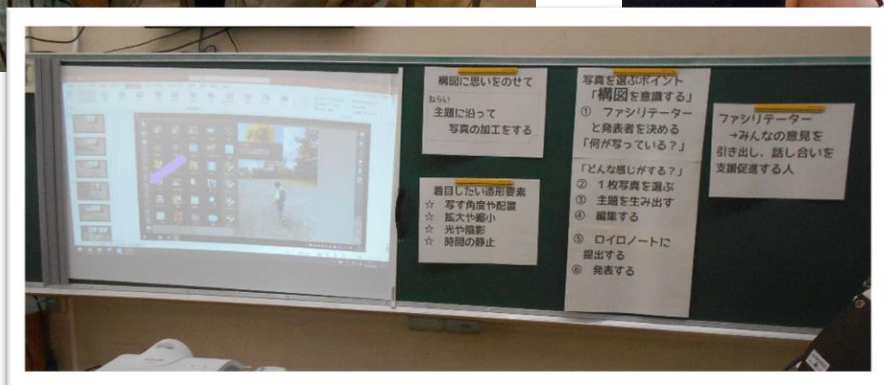
光の色や形そのものがもつ方向感、色の鮮やかさ、バランスなどの造形的な特徴を基に自分のイメージを持ちながら、表現する「光の形」。白い材料に当たった光の表情は、材料の厚みや切り方、ちぎり方によって様々です。偶然生まれた光と、意図的に構成した光の「感じ」の組合せの試しが体験できます。友達と「感じ方」や「形や色の工夫」を伝え確かめ合いながら、自分の形を見付けていく学習過程を紹介します。



○中学校「構図に思いをのせて」

授業者：石谷和佳子(森孝中)・佐久間貴子(山王中)

写す角度や配置、拡大や縮小、光や陰影、時間の静止などに着目して、タブレットPCカメラ機能で対象の魅力を捉える「構図に思いをのせて」。生み出した主題を基に、構図や色彩を工夫しながら、タブレットPC上で写真を加工し、臨場感を生き生きと表現することがねらいです。何度も試し、やり直したり、互いの見方や感じ方を伝え合ったりして、生徒の気持ちになって、構図に思いをのせていきます。



《参加者の感想》（一部抜粋）

- タブレットを使った鑑賞方法を、ぜひ活用していきたいと思った。プロジェクターを鏡に使うなど、いろいろなアイデアを知れてよかった。
- 個別化、協働の場面、その方法が分かってよかった。
- タブレットの振り返りの活かし方が勉強になった。
- 自分で試すことによって様々な発想が生まれてくると感じた。材料も白一色だったので、光に注目することができた。思ったような光り方をしてくれず何度もトライした。子どももそんなふうに考え、友達と話し合いながら発想をふくらませていくのだと感じた。
- 試す場で、様々な方の光の形を見ることができたことで、低位の子たちも思いつきやすく、個性的な作品が作りやすい環境をつくってあげることができると分かった。
- 山田教授が話していたように、授業のゴールや輪郭が分かると、より丁寧な授業になると思う。
- 作品をつくり始める前にたくさん試したり、他の人と話したりしながらやることができ、苦手な子にとってはいいと思った。
- 子どもの視点で授業に参加でき、よい経験になった。
- タブレットはロイロノートを使って制作記録をとったり、資料を活用したりする使い方のみで作品制作をしたことがなかったので興味深かった。
- 話し合っって作品をつくる体験が新鮮だった。美術は個での制作が中心だが、参考にしたい。
- DVDやデジピクスを活用して交わる活動ができ、ICTとグループ活動両方充実して取り組むことができた。



ICTを生かしたこれからの図工・美術の授業 【14:15～14:55】

～VRアートの魅力～

最近話題のVRを図工・美術の授業に取り入れる方法を紹介します。VRアートは平面に描く絵と違い、仮想空間に立体的に描くので、360度さまざまな角度から鑑賞することができます。VRが図工・美術の制作にどう生かせるかの可能性を探ります。



《参加者の感想》（一部抜粋）

- とても先進的で面白いが、世界がかけ離れていて頭がついていけなかった。
- 情報量が多かったので、もう少し時間があつたらよかった。
- すぐには取り入れられないことだが、知っておくことは大切だと思った。
- VR体験は、これからの時代に必要な知識だと感じた。様々な児童に合わせた指導には、かかせなくなっていくのだろうと思う一方、自分の手で触れて、目で見るという体験も大切にしたいと思った。
- 新しい技術について知れて大変面白かった。自分でも色々勉強したい。
- VRについての実用の可能性を知ることができた。一方で立体視できない人もいるなどの面を知ることができ、今後どのような場面で活用できるか、考えるきっかけになった。
- 聞きかじったことはあつたが、専門の方に実演を通して詳しい紹介をしてもらえたことで、身近な教材として感じることもできた。体験させてもらったのもよかった。
- タブレットによりやく慣れて活用できるようになったところで、新しいコンテンツ！とても興味をもった。どうVRを教育に活用しているか、自分でも調べてみたいと思う。
- VRを図工で使うと考えることがなかったので、ケータイで使えるものから使ってみたい。
- 空間認識ができ、ぜひ活用できるよう進めていこうと思った。
- iponeで3Dカメラが可能になることが分かり、鑑賞の際に使用してみたいと思った。

第2部 造形講演会 【15:00～16:00】

演題

『図画工作科・美術科における 個別最適な学びと協働的な学びを考える』

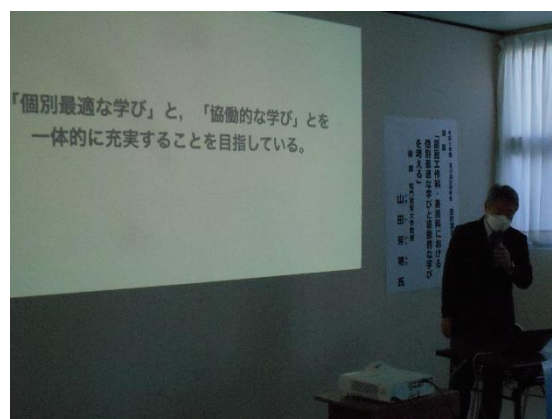
「主体的・対話的で深い学び」をよりいっそう推し進めるために、「個別最適な学び」「協働的な学び」をいかに取り入れ、子どもたちの可能性を引き出していくか、ご講演いただきます。
ぜひご参加ください。

【講師プロフィール】

鳴門教育大学 教授 山田 芳明 先生

美術科教育学会 大学美術教育学会 日本教材学会に所属

教育学は現場から生まれるという観点から、教育現場(小学校図画工作)の実践から出発し、とくに授業に着目した美術教育論の構築に取り組まれています。



《参加者の感想》（一部抜粋）

- 個別最適な学びなど、教育に必要な理念を再確認できてとてもよかった。
- 個別化、協働的、ICTの有効的な活用、想定を広げることが大切であることが分かった。
- 一人一人に応じた学習はやりたいけれど、目が届きにくくなっている現状がある。こまめに一人一人に対応できる工夫をしていきたい。
- 図工の「学び」について改めて考えることができた。子どもとつくりあげる授業にしたい。
- 次の活動をどんどんしたくなる学習活動の流れを考えたいと思った。
- 見通しのある授業や子どもたちどうしの交流を考えていきたいと思った。
- サザエさんとペーターの話はとても分かりやすかった。協働的な学びを意識していきたい。
- 授業イメージ、指導案は再考してみたいと思った。山田教授の実践例や考え方が知れました。それを基に2学期の教育に活かしていきたい。
- 学習履歴を残すことについて大変勉強になった。
- 授業をつくる中で何を意識していくとよいか、とてもよく分かった。

図画工作科における「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を追究した授業展開例

- 題材名 第2学年「わっかで へんしん」4時間完了 工作
- 目標 身に付けた紙の輪の飾り付けを試しながら、自分が変身したいものをつくる活動に楽しんで取り組むことができるようにする。
- 着目させたい造形的な特徴 いろいろな形や色、触った感じ など

STEP1

どのように変身したいのか考える。
発想

学習の個性化

からだの様々な部分に輪っかを身に付け、輪っかの形や色、身に付ける場所などから、どんな変身ができるのかを考える。

指導の個別化

- ホッチキスの使い方（教P63）を押さえ、安全に留意して製作させる。
- 一人一人がもつイメージの違いを認め、一人一人のよさや面白さとして大切にさせる。

協働的な学び

- 身に付けた輪っかやさまざまな材料から、何に変身してみたいのかをペアで伝え合う。
- △ 他者の見方や感じ方を知り、新しい刺激や発想として、これからの製作への意欲の高まりにつなげる。

STEP2

変身に合う形や色を見付け、工夫してつくる。
構想 技能

学習の個性化

- 様々な材料の形や色、触った感じから、変身に合う材料はどれか考える。
- 様々な材料を使って飾り付けを試すことで、自分が変身したいもののイメージに合う形や色になるように工夫する。
- 簡易提示装置とプロジェクターで、教室内に大型の姿見をつくっておき、身に付けた飾りの感じを確かめられるようにする。

協働的な学び

- **製作しながら**、形や色、触った感じなど、材料の飾り方の工夫のよさや面白さを見付け、ペアでタブレットを使い撮影し合う。撮影した画像をロイロノートで提出する。教師が全体で共有できる場面を設定する。
- △ 互いの表現のよさや面白さを共有することで、多様な見方や感じ方を知り、新たな発想につなげる。

STEP3

変身した姿を見合い、形や色の面白さを味わう。
鑑賞

協働的な学び

- 「わっかで変身！ショータイム」にて、輪の形からできた、様々な形や色、材料の感じに着目しながら、互いの表現のよさや面白さを楽しく味わう。
- 友達の変身の気に入ったところをタブレットで撮影し、見付けた面白い形や色に○を付ける。

STEP4

学びを振り返り次につなげる。
知識 態度

次なる題材例
小3「クリスタルアニマル」

学習の個性化

- 自分が思い付いたり見付けたりした面白い形や色、触った感じを記録する。
- 変身したものに近付いたのかを振り返り、満足感とその理由やこれからはどうしたいかを学習アプリに記録する。

指導の個別化

- 子ども一人一人の学習履歴から学びの進捗を確認・把握し、次時に向けたアドバイスをする。
- 学びを振り返りができない児童には、「どんな面白い形や色を思い付いたか、気付いたか」と声を掛ける。

図画工作科における「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を追究した授業デザイン

- 題材名 第6学年「光の形」4時間完了 立体
- 目標 光る形の美しさを味わいながら表したいことを見付け、光を受けた材料の見え方の変化を捉えながら表し方を工夫して、美しく見える形をつくることができるようにする。
- 着目させたい造形的な特徴 形の方向感、奥行き、バランス、色の鮮やかさ など

STEP1

光る形の美しさや、見え方の変化による面白さを捉える。 **発想**

学習の個性化

- 光源を、白いスポンジや梱包シートに当てて、見え方の変化を捉える。
- 「切る」「くり抜く」「ちぎる」など、行為を言語化しながら、様々な光の形を生み出す。

協働的な学び

- できた光の形を友達と見合ったり、光源を当て合ったりして交流する。
- ▷ 行為を言語化して全体で共有したり、試してできた形に注目して友達と交流させたりすることで、多様な表現を引き出したり、見え方の変化による面白さに気付かせたりする。

STEP2

光り方を確かめながら、形を削ったり組み合わせたりして表す。 **構想 技能**

学習の個性化

- 課題「自分だけの光の形を見付けよう」を基に、構想する。
- 木工用接着剤、セロハンテープ、ストローなどを接合のための材料として選択し、材料を組み合わせる。
- 段ボール箱を使用したり、LEDライトやタブレットの画面など様々な光を当てたりして、光り方を試しながら表現を追求する。

指導の個別化

- 「心情」「時間」「音」の言葉を提示し、イメージづくりの補助にさせるとともに、作形の方向感、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの工夫につなげることができるようにする。
- 複数の用具や場を用意しておくことで、一人一人の思いに合わせて製作できるようにする。
- イメージは表す中で変わってもよいこととする。

STEP3

互いの作品を鑑賞し美しさや見方の多様性を感じ取る。 **鑑賞**

学習の個性化

- 造形的な特徴を基に捉えた互いの作品のイメージを「心情」「時間」「音」のいずれかの言葉で表し、カードに書いて作品の近くに置く。

協働的な学び

- 自分の表現に対する友達の感じ方を知り、自分のイメージや作品と比べる。
- ▷ 幻想的な音楽を流し、光の美しさを感じ取る雰囲気高める。
- ▷ 「うきうき」や「夕暮れ」など、自分が抱いたイメージを抽象的な言葉で表したり、作者の意図と比べたりすることで、作品の美しさや見方の多様性を感じ取らせる。

STEP4

学びを振り返り、次につなげる。 **知識 態度**
次な題材例
中1 「折って、切って、巻いて」

学習の個性化

- 表現の工夫を振り返り、自分の作品の美しさや友達の感じ方などを基に作品に題名を付ける。
- ロイロノートや振り返りシート等を活用し、本題材で着目すべき造形的な特徴が理解できたか記入し、学習の履歴とする。

指導の個別化

- 子ども一人一人の学習履歴から、学びの進捗を確認・把握し、次時に向けたアドバイスをします。

図画工作科における「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を追究した授業デザイン

- 題材名 中学校第2学年「構図に思いをのせて」2時間完了 表現×鑑賞
- 目標 写真表現の特に構図に着目し、主題に沿って構図の効果を考えて構想を練ったり、タブレットで加工したりして表現できるようにする。
- 着目させたい造形要素 写す角度や配置、拡大や縮小 光や陰影 時間の静止 など

STEP1

写真で対象の
魅力を捉える

発想 知識 技能

学習の個性化

- 「面白い構図」「俯瞰的な構図」などの構図を意識して造形要素に着目し、撮影する。
- 「視点の冒険」で学んだ視点の位置による見え方の違いを感じ取らせ、様々な姿勢や角度で何枚も撮影させる。
- △ 試し撮影をさせることで、自分がどのように表現したいのか模索させる。

協働的な学び

- 撮影した写真を紹介し合い、それぞれの主題を共有し、一人一人の感覚の違いに気付く。
- △ 共有した他者の思いや表現を知ること、自己の表現を深める。

STEP2

生み出した主題に
合うように写真を
編集して表す。

構想 技能

学習の個性化

- 生み出した主題により近付くように、既習の表現方法を生かし、タブレットPCで写真を編集する。
- △ 生み出した主題を基にトリミングの位置などを変えながら編集を試すことで、活動をより深めることができる。

協働的な学び

- 各写真から、グループで1枚選択し、構図を意識し、「何が写っているか」「どんな感じがするか」という問いをきっかけとし、対話しながら主題を生み出す。
- 生み出した主題に近付くようにアイデアを出し合いながら編集する。
- △ あえて一つのタブレットを使用することで、自然と対話が生まれる。教師は生徒同士がつながりやすい場面を意識する。

STEP3

互いの作品を鑑賞し
構図の面白さを味わう。

鑑賞

指導の個別化

- 造形要素を言葉にして、黒板やホワイトボードなどに掲示しておく。
- △ 着目させたい造形要素を掲示して視覚化しておくことで、生徒が気付きやすくなる。

協働的な学び

- 主題と構図の工夫について話す。
- 造形要素に着目しつつ全体のイメージを捉えながら鑑賞する。

STEP4

学びを振り返り、次
につなげる。

知識 態度

題材例

中3「ひと目で伝えるための工夫」

学習の個性化

- 構図や編集の面白さを振り返り、気付きや疑問を言葉で表現し、学習アプリに記録する。
- △ 「何を学び」「何ができるようになったのか」について、造形要素を意識してまとめることで、学びを次につなげる。

指導の個別化

「造形要素を意識できたね」「見方が広がったね」など、できるようになったことを認めることで、構図を工夫して撮影・編集する活動がより楽しいものと感じられるようにする。